



2008年3月期 中間期 業績概要

2007年10月25日

アンリツ株式会社
社長 戸田 博道

東証第1部:6754
(<http://www.anritsu.co.jp/j/ir>)

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的
事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を
含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関
する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能
性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、
さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知お
きください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、
米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向
や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが
引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなど
です。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、
法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、
将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

目次

- 当社の事業セグメントの呼称と事業内容
- サマリー
- 2008年3月期中間期業績概要
- 下期の取り組み
- 2008年3月期通期の見通し

当社の事業セグメントの呼称と事業内容

1

| セグメント | サブセグメント | 事業内容 | 担当事業部の 主な所在国 |
|-------|--------------|--|-----------------|
| 計測器 | ワイヤレス | 携帯電話端末開発・製造・保守用テスト、無線インフラ敷設・保守用テストなど | 日本・米国・英国 |
| | 汎用 | 無線設備、電子部品等の開発・製造用汎用テストなど | 日本・米国・英国 |
| | 光・デジタル・IP | 光・デジタル・IP通信機器の開発・製造用テスト、およびネットワーク評価・保守用テストなど | 日本・米国・フランス |
| | サービス・アシュアランス | 携帯電話ネットワークなどのモニタリングとサービス品質保証用ソフトウェアなど | デンマーク・イタリア |
| 情報通信 | | 映像配信機器、通信機器、IPスイッチとその応用システムなど | 日本 |
| 産業機械 | | 食品・薬品・化粧品用重量選別機、異物検出機など | 日本 |
| その他 | | 印刷はんだ検査機、光デバイスなど | 日本 |

1. 中間期業績(連結)

受注・売上は堅調に伸び、営業利益は計画どおり

受注高: 513億円 (対前年同期比+2%)

売上高: 488億円 (対前年同期比+5%)

営業利益: 13億円 (対前年同期比 Δ 6億円)

経常利益: Δ 3億円 (対前年同期比 Δ 6億円)

2. 通期見通し(連結)

売上高: 1,035億円 (期初見込みどおり)

営業利益: 70億円 (期初見込みどおり)

経常利益: 35億円 (5億円の下方修正、棚卸資産評価・
廃却損、経営構造改革費用の増加)

当期純利益: 25億円 (期初見込みどおり、繰延税金資産等の調整)

中間期業績概要(連結)



- 期初より増収・営業減益を想定、ほぼ計画どおりの結果
- 米国子会社の繰延税金資産等により、当期純利益は昨年より改善

(単位:億円 四捨五入)

| | 前中間期 (4-9月)実績 | 当中間期 (4-9月)実績 | 前年同期比 増減額 | 前年同期比 増減率(%) |
|-------------|------------------|------------------|--------------|-----------------|
| 売上高 | 465 | 488 | 23 | 5% |
| 営業利益 | 19 | 13 | △ 6 | △ 32% |
| 経常利益 | 3 | △ 3 | △ 6 | - |
| 税引前当期純利益 | 1 | △ 3 | △ 4 | - |
| 当期純利益 | △ 4 | △ 2 | 2 | - |
| フリーキャッシュフロー | 31 | 1 | △ 30 | △ 95% |

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

事業別売上高・営業利益(連結)



■ 計測器は増収・減益

アジア・国内向け携帯電話用計測器のPRODUCTミックス変化

サービス・アシユアランスは売上の拡大と固定費圧縮で計画どおり収益改善

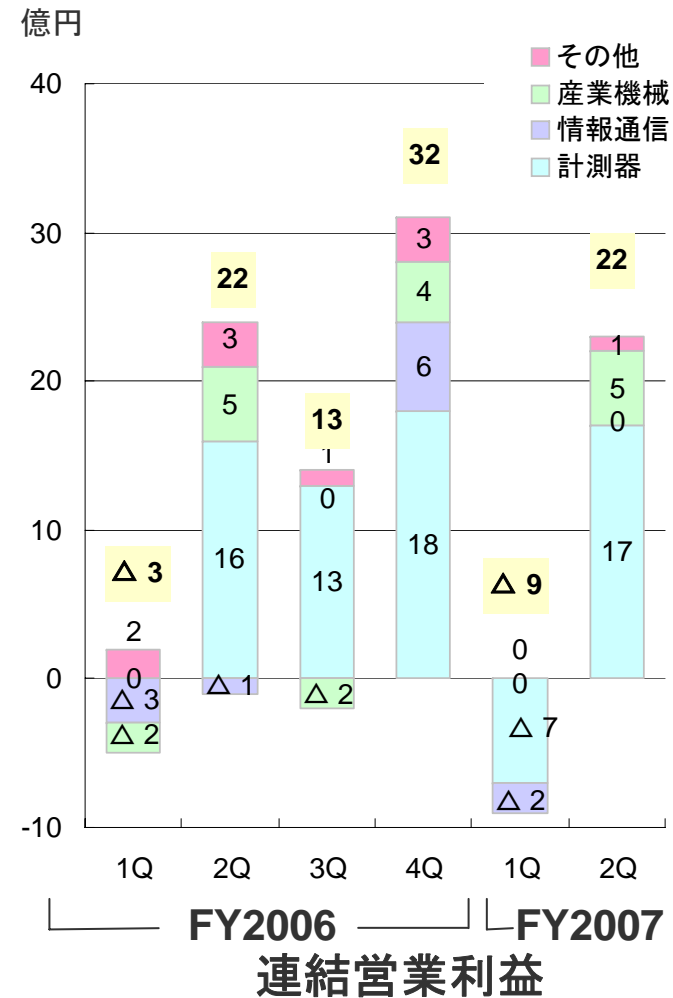
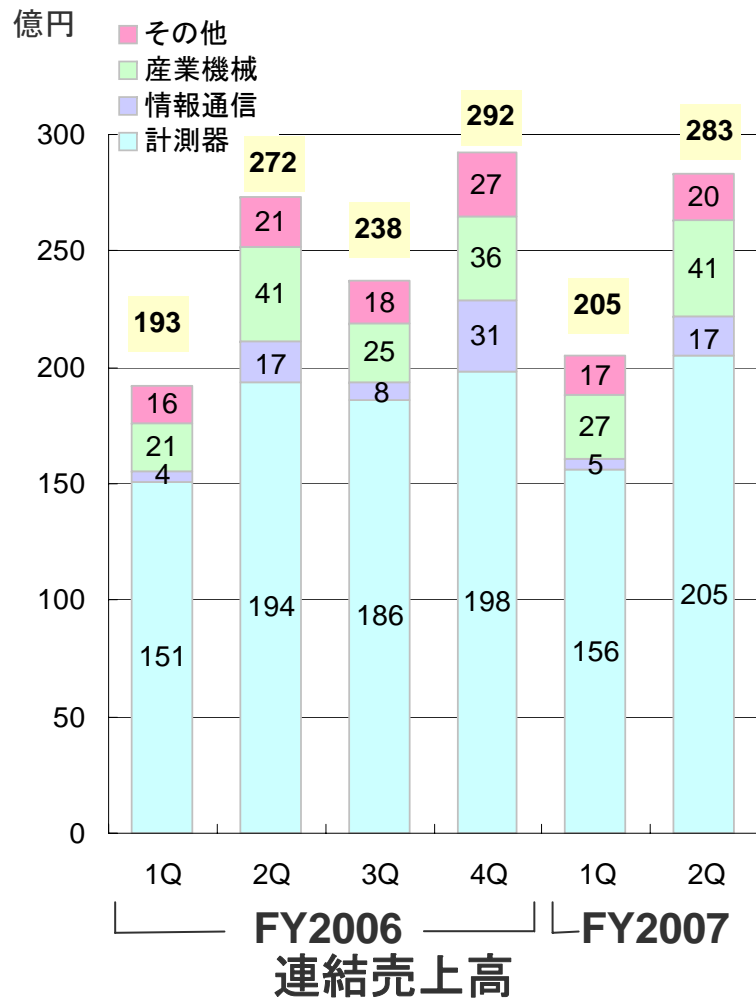
■ 食の安全に対する産業機械設備投資堅調

(単位:億円 四捨五入)

| | | 前中間期 (4-9月)実績 | 当中間期 (4-9月)実績 | 前年同期比 増減額 | 前期比 増減率(%) |
|------|------|------------------|------------------|--------------|---------------|
| 計測器 | 売上高 | 344 | 361 | 17 | 5% |
| | 営業利益 | 16 | 10 | △ 6 | △35% |
| 情報通信 | 売上高 | 21 | 22 | 1 | 4% |
| | 営業利益 | △ 5 | △ 3 | 2 | - |
| 産業機械 | 売上高 | 62 | 68 | 6 | 10% |
| | 営業利益 | 3 | 5 | 2 | 50% |
| その他 | 売上高 | 38 | 37 | △ 1 | △1% |
| | 営業利益 | 5 | 1 | △ 4 | △89% |

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入、その他セグメントの数値は内部消去を含む

事業別売上高・営業損益推移(連結)

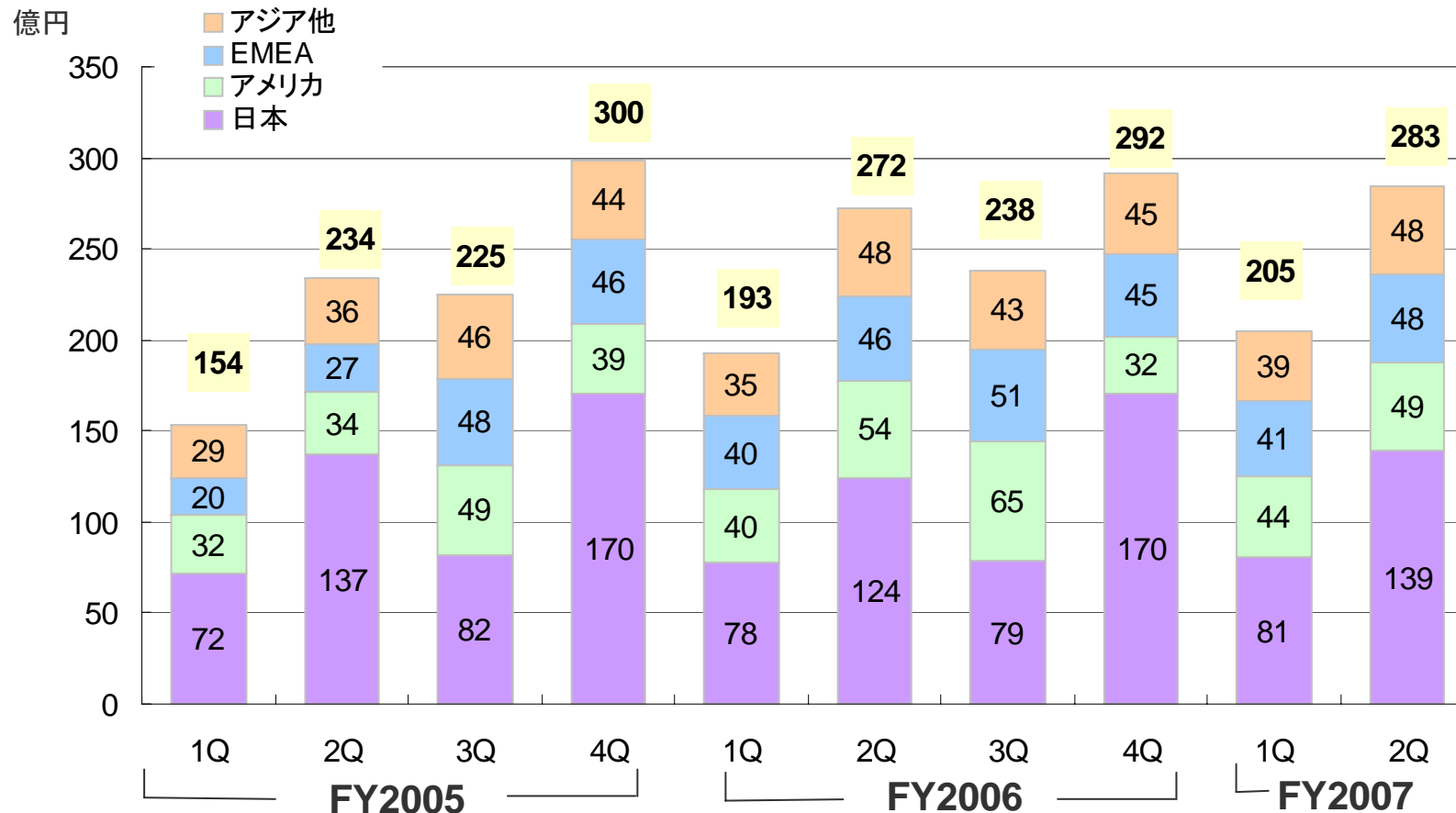


(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

地域別売上高推移(連結)



日本が好調:計測器(移動体通信関連)と産業機械



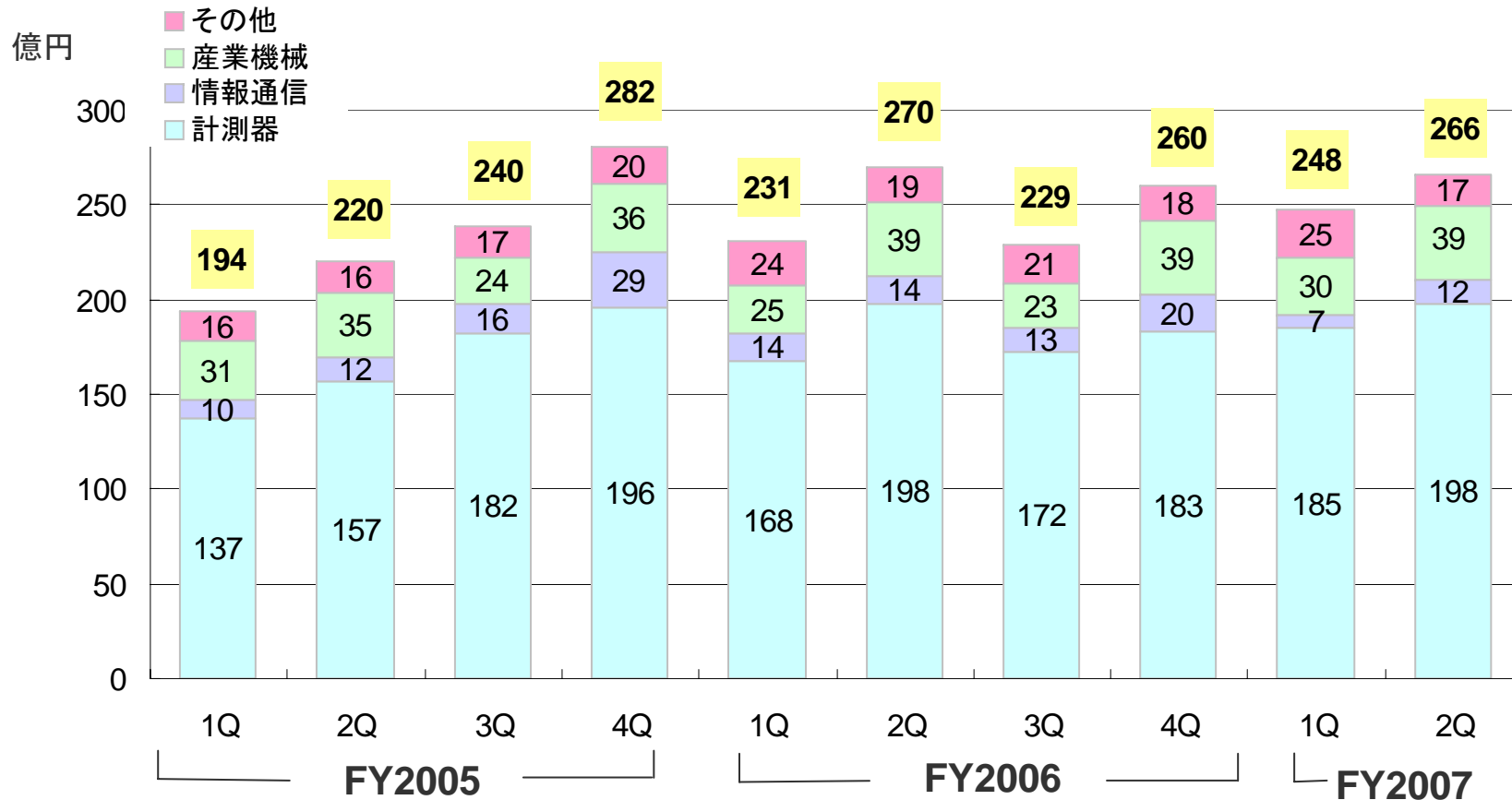
注1)2006年度から「ヨーロッパ」を「EMEA」(欧州・中近東・アフリカ)に変更。過去のデータはすべて現在の定義に修正済み。

注2)値はそれぞれの欄で四捨五入

事業別受注推移(連結)



ネットワークのIP化・光化に向けた投資、携帯電話増産などにより、計測器受注は引き続き堅調に推移



(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

営業外・特別損益概要(連結)

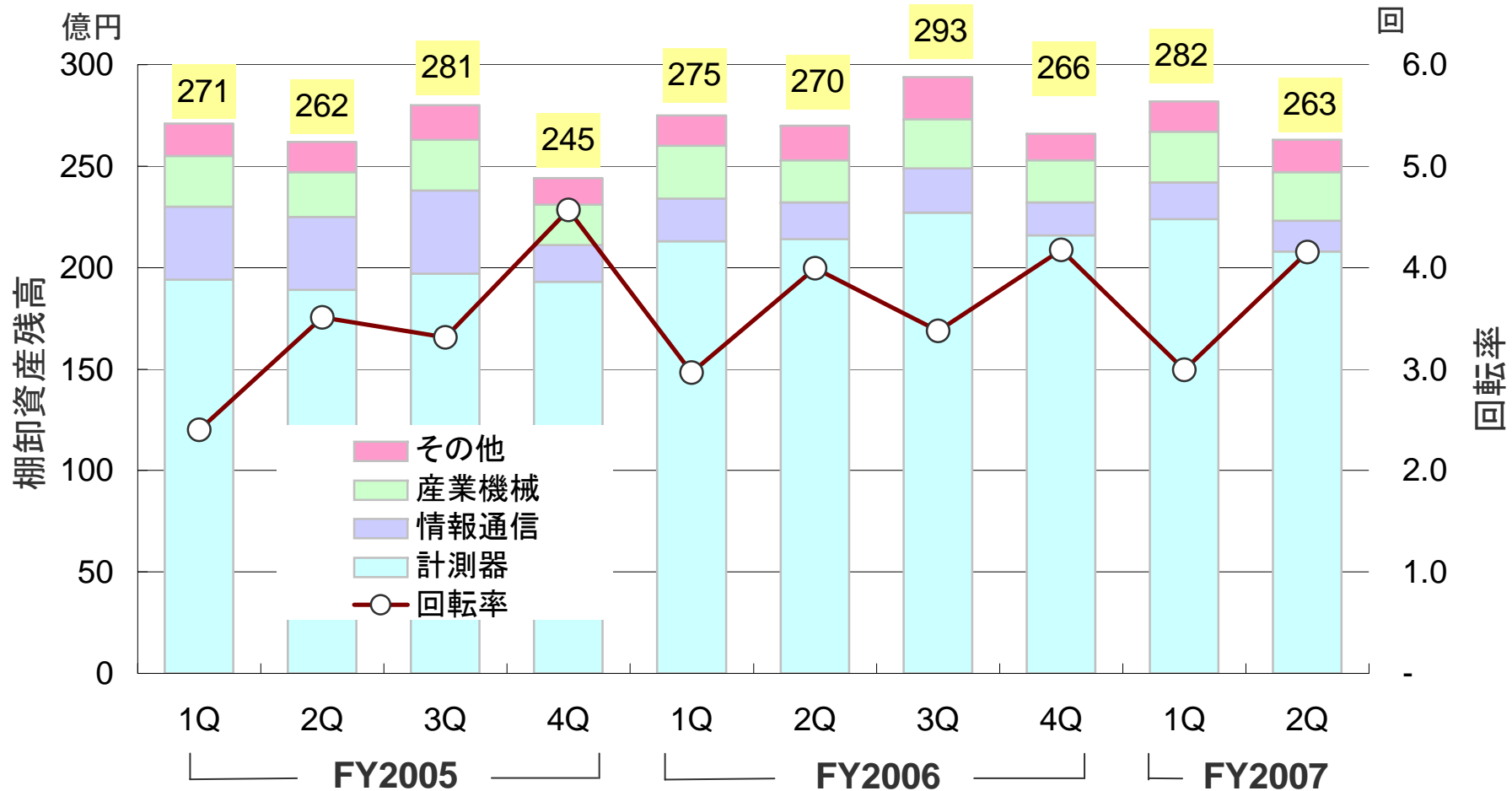


棚卸資産評価損等の増加 — デモ機の評価損等

単位:百万円 四捨五入

| | 前中間期 (4-9月)実績 | 当中間期 (4-9月)実績 |
|---------------|------------------|------------------|
| 営業利益 | 1,874 | 1,276 |
| 金融収支 | △ 516 | △ 327 |
| 棚卸資産評価損等 | △ 567 | △ 973 |
| 為替差損益 | △ 297 | △ 11 |
| その他 | △ 188 | △ 282 |
| 営業外損益計 | △ 1,567 | △ 1,593 |
| 経常利益 | 307 | △ 317 |
| 固定資産売却益・廃却損 | △ 47 | - |
| 特別退職金 | △ 151 | - |
| その他 | △ 40 | △ 29 |
| 特別損益計 | △ 239 | △ 29 |
| 税引前利益 | 68 | △ 346 |

棚卸資産残高推移(連結)



(注1) 回転率 = 四半期売上高 × 4 / 四半期単位平均棚卸資産 (注2) 値はそれぞれの欄で四捨五入

キャッシュフロー概要(連結)



当中間期

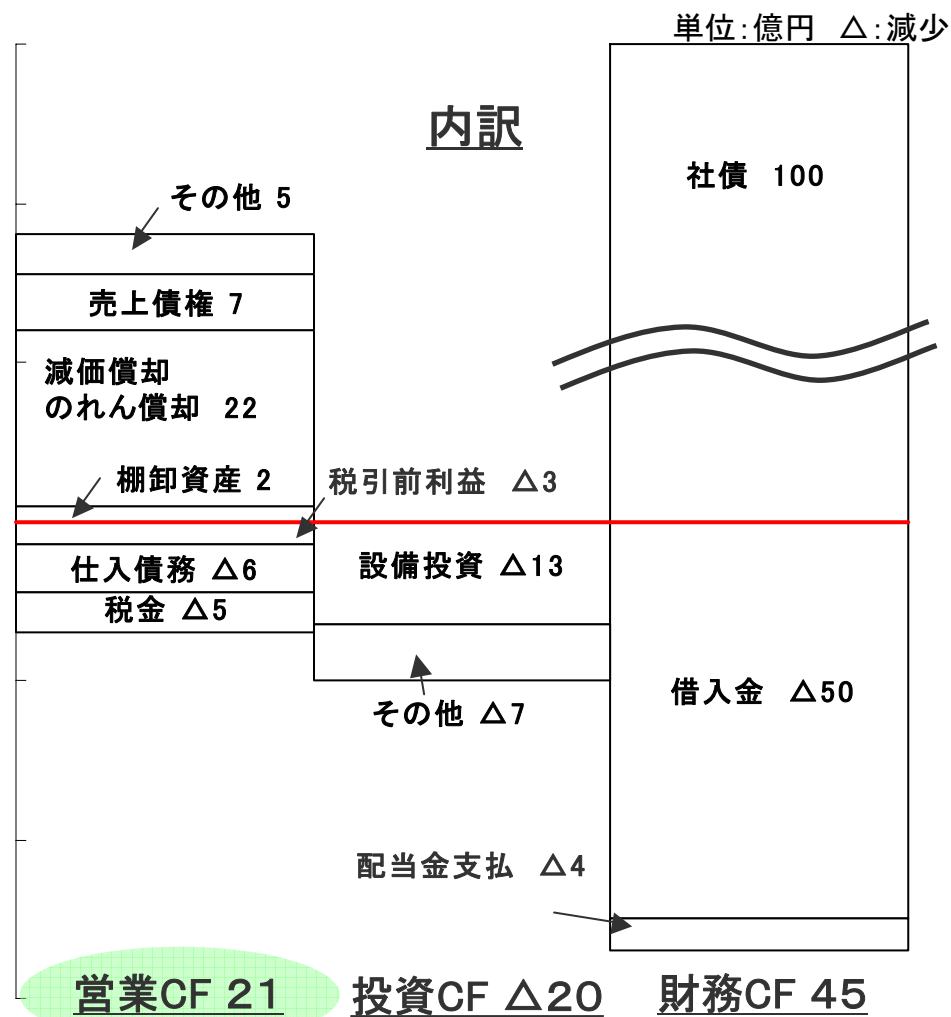
- ①営業CF: 21億円
- ②投資CF: △20億円
- ③財務CF: 45億円

フリーキャッシュフロー

(①+②): 1億円

現金及び現金同等物の 期末残高

244億円

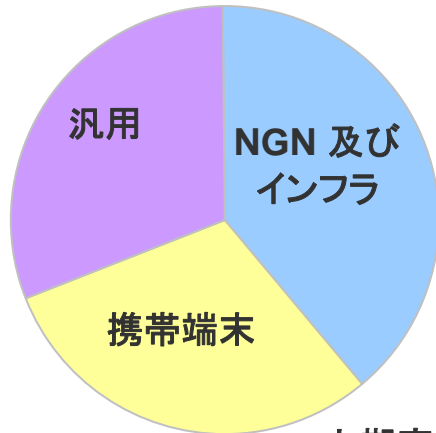


(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

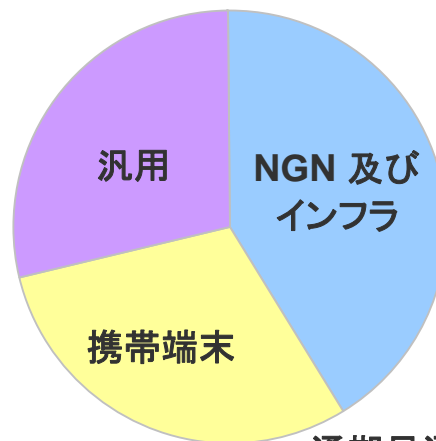
計測器事業：期初市場認識と上期の状況



事業領域別売上高 (FY2007)



上期実績



通期見通し

期初市場認識

NGN及びインフラ

- 超高速デバイス・伝送装置計測需要の高まり
- 北米FTTx投資本格化
- サービス・アシュアランス (SA) 需要の伸長



上期の状況

- 新製品の機能強化進行中
- デバイス関連投資抑制
- FTTX・IP通信関連堅調
- SAの受注・売上好調

携帯端末

- 高まる3G端末計測需要
- 中国TD-SCDMAビジネス



- 3G製造用が急拡大、開発用は欧州からアジアへ
- 中国TD-SCDMAは下期

汎用

- デジタル放送、WiMAXなどの応用拡大



- ハンドヘルド計測器・信号源の売上拡大
- 新型信号解析器発売

計測器事業：下期の重点施策



■ 新製品及び機能強化による売上・利益の拡大



超高速デバイス用



FTTH工事用



汎用信号解析器



3G/WiMAX
/デジタル放送用

■ 3G携帯端末計測器の継続的売上拡大 ■ 中国TD-SCDMAビジネス



携帯端末開発用



携帯端末製造用

■ サービス・アシュアランスの黒字化達成 ◆ EMEA+米州・アジアでの受注拡大 ◆ プログラム・マネージメントの徹底



計測器事業：グローバルに展開する営業戦略



顧客重視の営業活動による市場要求との整合
継続的地域プレゼンス：中国20周年・ブラジル30周年



情報通信事業の取り組み

期初市場認識

- 防災関連への重点投資
- IPネットワーク品質保証要求の高まり

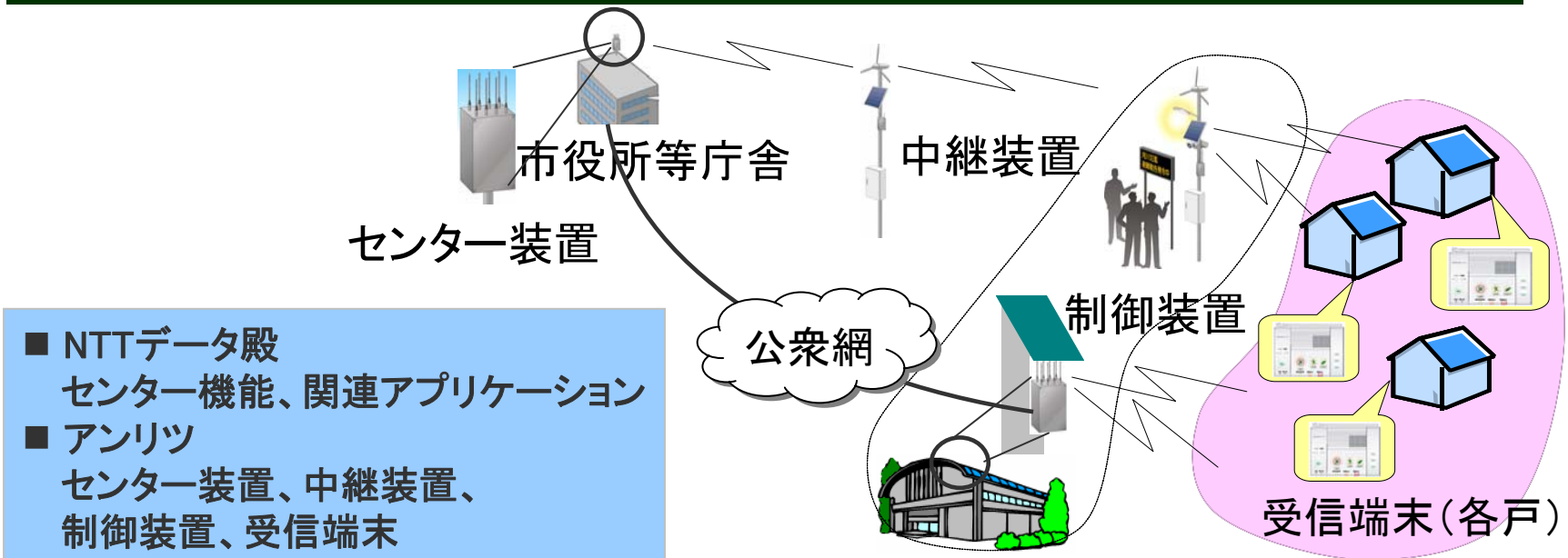
上期の状況

- 重点事業領域への集中

下期の取り組み

- 重点事業領域への集中
- マーケティング強化
- 協業の強化

NTTデータ殿との協業による「双方向型減災コミュニケーションシステム」



産業機械事業の取り組み



期初市場認識

- 食の安全に対する設備投資の裾野拡大
- 海外市場の拡大



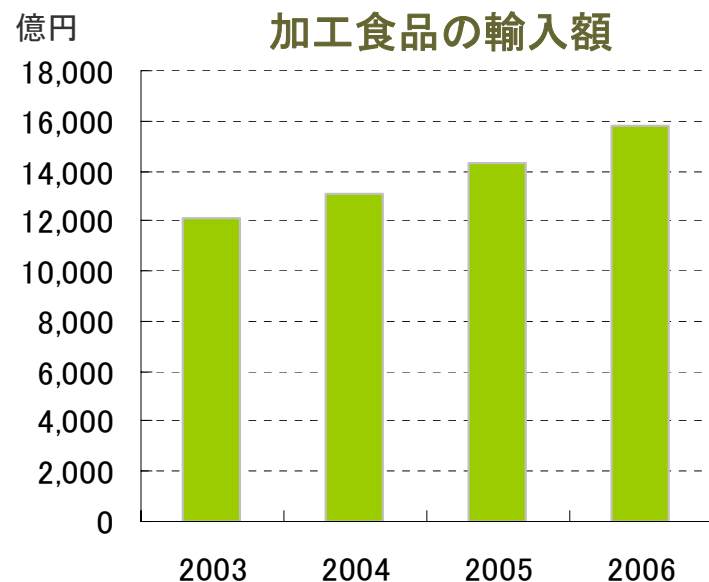
上期の状況

- X線異物検出機の需要拡大
- ASEANからの需要拡大
- 金属材料価格の上昇



下期の取り組み

- 継続的生産革新
- 海外市場の積極的開拓



注：(社)食料需給センター統計



海老用多段階計量システム
(ベトナム)

2008年3月期 通期の見通し(連結)

経常利益のみ、40億円から35億円に修正

単位:億円

| | | 2007/3期 | 2008/3期 | | |
|-------|------|---------|---------|------------|---------------|
| | | 通期実績 | 通期予想 | 前期比 増減額 | 前期比 増減率(%) |
| 売上高 | | 994 | 1,035 | 41 | 4% |
| 営業利益 | | 64 | 70 | 6 | 10% |
| 経常利益 | | 32 | 35 | 3 | 10% |
| 当期純利益 | | 14 | 25 | 11 | 82% |
| 計測器 | 売上高 | 729 | 765 | 36 | 5% |
| | 営業利益 | 47 | 53 | 6 | 12% |
| 情報通信 | 売上高 | 60 | 65 | 5 | 8% |
| | 営業利益 | 1 | 1 | 0 | - |
| 産業機械 | 売上高 | 123 | 125 | 2 | 2% |
| | 営業利益 | 6 | 7 | 1 | 15% |
| その他 | 売上高 | 83 | 80 | △ 3 | △3% |
| | 営業利益 | 9 | 9 | 0 | - |

配当: 1株当たり年間7円(うち中間配当3.5円)を予定

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入